

令和3年度
中国四国農政局補助事業事後評価技術検討会（第2回）

議 事 録

事務局

ただ今から中国四国農政局国営等事業管理委員会 補助事業に係る事後評価技術検討会を開催します。

本技術検討会は、「原則公開」とされていることから、11月8日に、本日開催する旨をプレスリリースするとともに、当局ホームページにも掲載したところですが、傍聴等の申し込みはありませんでした。

それでは、以降の議事につきましては諸泉委員長に進行をお願いしたいと思います。

諸泉委員長

それでは早速ですが、議事次第1の「令和3年度事後評価結果書の追加修正について」事務局より説明をお願いします。

事務局

～資料説明～

諸泉委員長

ただいまの件について、何かご質問等はございますか。

豊田委員

評価結果書の中の③所得と雇用機会の確保で年代別の人数を記載していますが、これは28年度以降新たに雇用した人数ということでしょうか。

事務局

そのとおりです。

豊田委員

平成28年以降の雇用というのが分かるように追記した方が良いのではないのでしょうか。

事務局

平成28年から令和3年12月現在までの雇用ということが分かるように追記します。

諸泉委員長

他にいかがでしょうか。

佃委員

今回新たに追加された国産農産物安定供給効果について、国産農産物の安定供給に対して国民が感じる安心感の効果とありますが、もう少し具体的に教えてもらえませんか。

事務局

これは、国民に対して国産農産物安定供給に対する支払意志額を確認し、その単位食料生産額当たりの効果額97円を原単位として算定しています。全国一律の原単位です。

駄田井委員

この効果については粗収益額に効果額をかけていますが、額に額をかけるのは違和感があるので見直す機会があれば検討してはどうでしょうか。

柵木部長

この効果は事業によって生産額が伸びる、その伸びた額に対して、効果がどれくらい上がるのかを原単位を使って計算するルールとなっています。これは平成27年から運用している効果です。

なお、第1回委員会時にこの効果を算定していなかったのは、この効果が27年度以降に適用された効果であり、27年度以前の費用対効果を行っている本地区では、この効果は含めなくて良いと判断したからです。

しかしながら、本省から効果を加えるべきとの指摘があり、今回追加させてもらっていました。

豊田委員

費用対効果分析の算定の基礎となった要因の変化にあります事業計画の計画値とはいつの時点の値なのでしょう。

事後評価時点はこの計画値と単純に比較して良しと判断するものなのでしょう。

事務局

この計画値は平成19年に作成した事業計画における事業完了後の時点での計画値となっています。

評価時点の数值は事業完了後5年経過した時点の数值ですので、完了時点の計画値と同じ時点のものではありません。

諸泉委員長

これは平成18年時点の現況を踏まえて計画値を作るものなのでしょう。

柵木部長

平成18年時点の現況の収量から、事業によりどれくらい伸びるのかを想定して計画値を算定しています。

諸泉委員長

他にありませんか。それでは特にないようですので、議事次第2の技術検討会委員の意見

取りまとめに入りたいと思います。

～ 技術検討会委員による意見取りまとめ ～

諸泉委員長

それでは、技術検討会からの意見を読み上げさせていただきます。

中国四国農政局が実施した農業競争力強化基盤整備事業「能義第二地区」の事後評価に対する技術検討会の意見は以下のとおりである。

ほ場の大区画化や地下水位制御システムを整備し、事業を契機に新たに設立された農業法人に農地を集積したことで、営農経費の大幅な節減や新たな雇用の創出につながるなど、農業生産の維持・拡大が認められる。また、環境保全型農業を推進しており、ハクチョウやコウノトリが飛来するなど、自然環境の維持に繋がっている。

今後は農業法人が作る中長期プランをもとに、高収益作物の生産や6次産業化など経営の多角化及びスマート農業の推進を図りながら、担い手の育成と共に農業生産のさらなる拡大を期待したい。

諸泉委員長

以上で、本日の議事は全て終了しましたので、進行を事務局にお返しします。
スムーズな議事進行にご協力を頂き、ありがとうございました。

事務局

諸泉委員長、どうもありがとうございました。それでは最後に柵木部長より、一言お礼の挨拶を申し上げたいと思います。

柵木部長

技術検討会委員の皆様におかれましては、年末のお忙しい中、お寒い中、本技術検討会にご参加賜り、また熱心なご議論を頂きまして、誠にありがとうございました。

2回にわたってご議論頂きました能義第二地区の事後評価結果につきましては、本日取りまとめて頂きました第三者の意見を付して農林水産省農村振興局長に報告し、3月末に公表する予定としております。

本日は大変ありがとうございました。

(参考) 中国四国農政局事後評価技術検討会の概要

1 日 時

令和3年12月20日（月）11:10～11:50

2 場 所

中国四国農政局10階 第10会議室A B

3 出席者

【中国四国農政局事後評価技術検討会】

河 口 洋 一※	国立大学法人徳島大学大学院社会産業理工学研究部 准教授
駄田井 久	国立大学法人岡山大学大学院環境生命化学研究科 准教授
佃 俊 子	東讃地区生活研究グループ連絡協議会 会長
豊 田 知 世	島根県立大学地域政策学部地域政策学科 准教授
諸 泉 利 嗣	国立大学法人岡山大学大学院環境生命科学研究科 教授

※ W e b 出席

【中国四国農政局国営等事業管理委員会】

柵 木 環	農村振興部長
渡 邊 史 郎	地方参事官
山 口 康 広	農村振興部 農地整備課長

【事務局等】

浅 野 弘 幸	農村振興部 土地改良管理課
---------	---------------

4 提出資料

- ・議事次第
- ・出席者名簿
- ・令和3年度補助事業事後評価書「能義第二地区」
- ・能義第二地区の事業の効用に関する説明資料